

一般演題 ポスター発表

演題分類：18 薬薬連携

演題：地域医療推進のための病院・保険薬局間の患者情報提供体制について

○谷原明子、松浦温子、石井恵理香、片岡佑貴、中塚桃子、寺崎展幸、井上智恵、藤原康浩、西窪奈津子、横田聖子、織邊聡、西尾孝、福井英二

(兵庫県立尼崎総合医療センター薬剤部)

【目的】「h-Anshin むこねっと」(以下むこねっと)は阪神南北医療圏域(7市1町)の医師会、看護協会、県立病院、民間病院協会、学識経験者等で構成される ICT を利用した地域医療連携支援システムである。むこねっとによる連携システムの一つに他の医療機関への患者情報の提供及び参照を行う「患者情報共有システム」がある。今回、病院・保険薬局間の情報提供体制を強化し地域医療を推進することを目的とし、むこねっとについて保険薬局に対するアンケート調査を実施したので報告する。

【方法】2015年7月22日から8月7日までの期間で、尼崎市薬剤師会の保険薬局196施設を対象に、患者情報の収集方法及びむこねっとの利用希望等に関するアンケート調査を行った。

【結果】74施設から回答を得ることができ、回収率は38%であった。患者情報の収集方法は“お薬手帳”及び“患者との対話”の回答がいずれも95%以上だった。むこねっとへの参加は“希望するが難しい”との回答が69%であり、その理由として“参加費用が高い”という回答が70%と最多であった。保険薬局が希望する病院からの情報提供方法(むこねっとを除く)は“お薬手帳への記入”が73%で最も多かった。提供を望む患者情報は病名・入院時処方・検査結果等であった。

【考察・結論】お薬手帳は、スペースの問題から記入できる情報量に限りがあり、入院時処方や検査結果等保険薬局が望む情報を十分に提供するのは難しい。その点、むこねっとでは情報量が多い入院時処方等も提供することが可能であり、保険薬局が病院からの提供を希望する患者情報の大半を参照することができる。しかし保険薬局がむこねっとに参加するには参加費用が課題であることも再認識されたため、クラウドのような最新技術の導入による参加費用の低廉化やむこねっと参加のメリットの説明等により課題解消を図っていくべきと考える。